

『高知大学留学生教育』第16号の刊行に寄せて

高知大学グローバル教育支援センター
センター長 今井典子

2020年から続いているコロナ禍の中で、ようやく2022年2学期から協定校からの交換留学生の受入れが再開された。その最初の交流として2022年9月29日に、本学学生の主催で、留学生の歓迎交流イベント（「ごちゃませ国祭交流－Welcome to Kochi University－」）が行われ、多様な活動を通して交流を深めることができた（留学生22名、すでに高知大学で学んでいる留学生と日本人学生を合わせ、合計65名が参加）。期待と不安を抱え9月に高知大学に到着した22名の留学生が、10月からの新学期を少しでも安心して楽しく過ごしてほしいという学生や教職員の思いから実現されたイベントであった。今後も、グローバル教育支援センターは、対面での学生間交流が活発になるように、このようなイベントを企画し提供したいと考えている。

センターは、コロナ禍以前より教員間、学生間のオンラインを活用した国際交流を実施、あるいは支援している。オンラインであっても、交流を通して言語のみならず多種多様な文化や価値観に触れ、理解に結びつくことができるように工夫をしながら取り組んできた。しかし、現地での交流でしか体験できないものがあるのは確かである。例えば、異なる文化の中で実際に生活し学ぶことは、言語スキルのみならず異文化対応力（適応力）が求められることになる。これまで「当たり前」としてきたことが、そうでないことも生じる。そのようなときにこそ、自分のもつ価値観を再考する良い機会となるのである。ものの考え方や見方の幅が広がり、柔軟な思考力と複眼的な視点で、これまで捉えることができなかった様々なことに気づくことになる。そのようにして、自身の文化（価値観）と向き合い、新しい環境や異なる価値観を持つ人々に対応するプロセスを経験することができるのである。この異文化対応力は、今後のキャリアに活かされ、卒業後に多様な考え方を持つ人々と協働して活動する際に役立つ力となる。また、留学生には自身の国の「良さ」と「課題」を発見する機会としてほしいものである。日本での暮らし、高知での生活は、自身の国や地域の文化、さらに課題について認識する経験となる。留学中は授業のみならず、できるだけ地域とも関わり、また、キャンパス内での学生交流を積極的に経験してほしいと願っている。